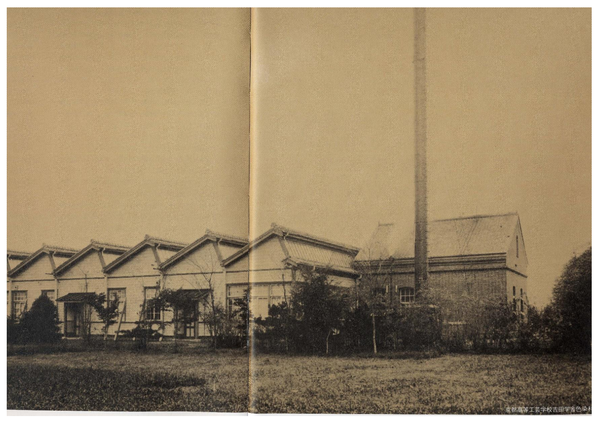
美術工芸資料館所蔵品より

大正天皇妃・貞明皇后）御料服地のデザイン・染色・製織

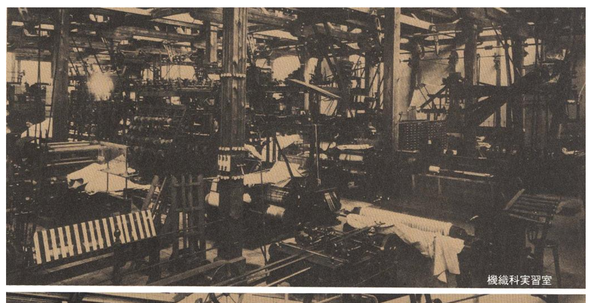
京都高等工芸学校設立の頃
（工芸学部80年より抜粋）

図案科の武田五一，色染科の鶴巻鶴一，機織科の萩原清彦が相次いで欧州各国に研究留学生として派遣された。設立委員中沢岩太も1900年パリ万縛調査と現地における実業学校教育視察のため，渡欧した。当時欧州の各地では20世紀工業時代に対応すべき新しい美術・工芸のあり方を模索する動きが膨湃として高まりつつあった。･･･略･･･

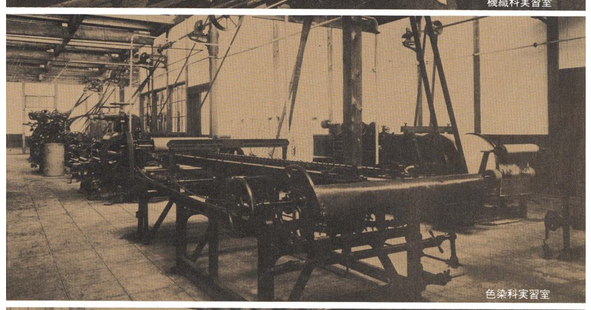
こうした情勢を目の辺りにして新しい知見を得た武田らは、多くの資料･標本を携え、機器を買い付けて帰国、早速設備を整え、独自の教科目･授業法を編んで新教育の実践に踏み出した。



吉田学舎色染科および機織科工場



機織科実習室



色染科実習室

図案科実習室

縫取模様入フランス縮緬

貞明皇后御料服地作製の経緯
（工芸学部70周年史より抜粋）

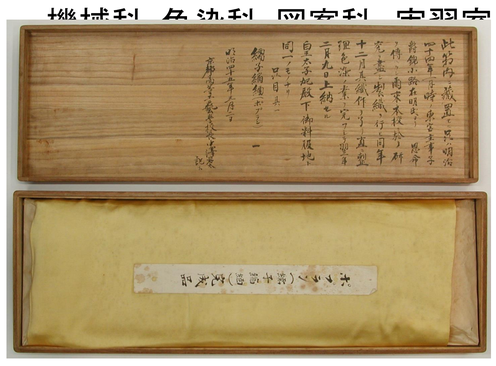
1. 東宮殿下京都高等蚕業学校及び京都高等工芸学校行啓
明治43年9月29日及び10月1日

2. 皇太子妃殿下御料服地上納　明治45年2月製作　織物2点の上納
皇太子妃御料服地を本校に下命、織物2点を上納

製作品上納の経過

明治43年9月皇太子殿下行啓下検分のため錦小路主事が来校、妃殿下には飼養の家蚕の絹糸をもって製織を下命する意向があるが、これを受けるものがなく甚だ遺憾の次第とのこと。これを受けて中沢校長は、いかに困難とはいえ一度欧州で製作されたものなら、学理と技術との応用を研究すれば成らぬことはあるまいと考え、一応見本の品を拝見し、研究を尽くした上で本校において製織の下命を受けたい旨を願い出た。

見本は2種類あり、1つは縫取模様のあるフランス風の縮緬、もう1つは近来彼の地において創織された「ポプラン」と称するもので、これを拝借して研究を重ねた。研究の結果、ほぼ類似のものを製作し、その精巧さに妃殿下も満足し、絹糸を下附され製織を開始した。44年9月11日から機拵の手順に着手、12月28日に製織の業を終り、翌45年1月授業開始を待って色染整理の作業に入り、2月9日に萩原教授が携帯して上納した。



ポプラン

絹縮　、繻子地縮緬地天鵞絨唐草文様

薄藤色地ダリヤ模様捺染　　玉入撚搦織

3. 皇后陛下御料服地製織上納　大正3年4月
一、繻子地縮緬地天鵞絨唐草文様入　15ヤード　（模様色合は見本の通り薄藤色）、
一、絹　縮　25ヤード（色合は見本の通り水色）
大正3年3月萩原教授の下に機織の作業を終り、引続き鶴巻教授の監督に移り、精練、色染、整理の作業を完了し、･･･中略･･･皇后宮職へ持参した。御下命は二品であったが、天鵞絨地絹縮唐草文様の一品は製織の際他の一品と重織として製作されるもので、これを分離して他方の用に供するのは甚だ希望しないところと三品を持参、皇后陛下にはいずれも満足に思召され三品とも納めるよう伝達があり上納された。

4. 皇后陛下御料服地製織上納　大正4年4月
大正3年11月御料服地機織の儀を本校に下命され･･･中略･･･同4年4月滞りなく上納した。上納御料服地は
一、擬紗　二疋　但し　一、薄藤色無地　一疋、　一、薄藤色地ダリヤ模様捺染　一疋

5. 皇后陛下御料品上納　大正5年4月
京都御所にご駐輦の皇后陛下に対し、本校より天鵞絨卓子掛裂地一枚の献上方を出願、嘉納の栄に浴し、 ついで皇后陛下御料服地として本校機織科が謹製した玉入撚搦織十六碼を上納した。

6. 皇后陛下御料服地製織上納　大正5年12月
東京高等蚕糸学校調整の生糸を本校で謹織の上精練仕上げし、総縫取菊桐模様縞入シフォン織物二十碼が、東京高蚕から文部省を経由し皇后陛下手許に上納された。

7. 御式服用絹布板引仕上法研究　大正6年8月

8. 皇后陛下本校へ行啓　大正6年11月

9. 皇后陛下京都高等蚕業学校へ行啓　大正8年5月（繊維学部70年史より）

10. 皇后陛下手製の絹糸を下附･卓子掛三枚上納　大正10年3月
皇后陛下御養蚕所十周年記念手製の絹糸を本校に下附、卓子掛三枚を三月に上納した。

11. 明治天皇御歌集用表紙裂上納　大正10年12月

シフォン織物

御御下附材料絹糸

美術工芸資料館所蔵品より

久邇宮良子女王殿下（昭和天皇妃・香淳皇后）御婚儀用御装束のデザイン・染色・製織

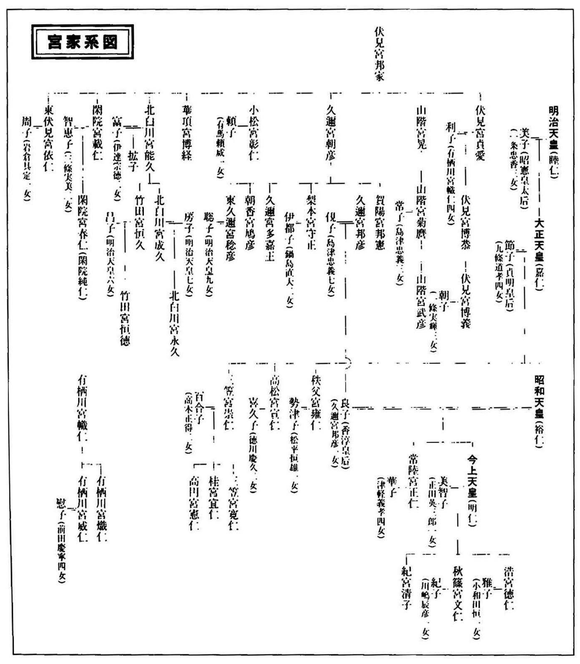
淳宮殿下御成年式御料服地と皇太子殿下、久邇宮良子女王殿下御婚儀様御料服地作製
（工芸学部70周年史より抜粋）

12. 淳宮殿下御料服地上納　大正11年3月
かねてご下命により製作中の淳宮殿下御成年式御料服地が完成し、三月上納した。

13. 久邇宮陛下一行来校　大正12年5月
久邇宮邦彦王殿下、同妃殿下、良子女王殿下の一行は大正12年5月青葉の京へ入洛、30日に本校を巡覧した。「この日午後2時30分良子女王殿下一行は鶴巻校長以下職員の出迎えを受けさせられ、講堂にて少憩ののち一同に接見を賜い、校長の案内で各科工場を御巡覧遊ばされたが、就中今秋行わせらるる可き東宮殿下とのご成婚式の際、お召しになる十二単に就ては萩原教授よりご説明を熱心に聞し召され御感殊の外に深かりし模様だったが、父宮殿下よりは“ご苦労である”との有難き御言葉を賜わり･･･略

14. 皇太子殿下、久邇宮良子女王殿下御婚儀用御料服地上納　大正12年6月
皇太子殿下、久邇宮良子女王殿下御婚儀用御料服地は6月18日に完成し上納された。
注）9月に御婚儀の予定は、9月1日の関東大震災により大正13年1月26日に延期

15. 久邇宮多嘉王陛下本校台臨　昭和6年10月
本校創立30周年記念祝賀式を機に皇族殿下を迎えたい･･･中略･･･10月20日久邇宮多嘉王陛下、同妃殿下には本校職員生徒一同堵列奉迎のうちに到着･･･略



大正13年1月26日　ご成婚

久邇宮良子女王御婚儀御装束裂地帖　AN2518

上納した御婚儀御装束服地の一部が裂地として下賜されたため、帖に仕立て、関連資料（図案、型紙、宮内省担当者からの書簡）と共に保管した。

デザイン作製

夏　小袿

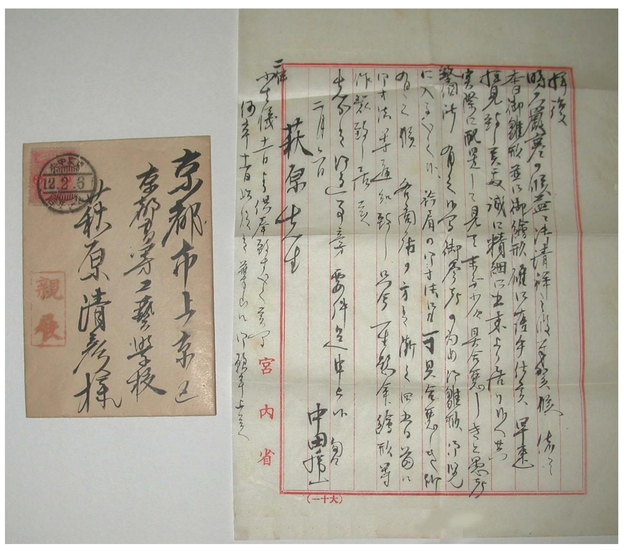
冬　小袿

冬　袿

夏　袿

冬　表着

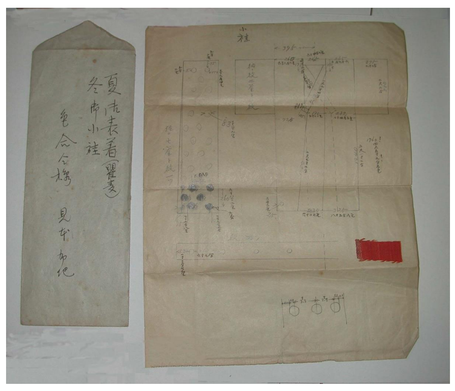
宮内省用度課　中田虎一氏からの書簡

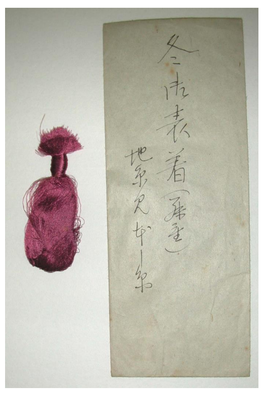


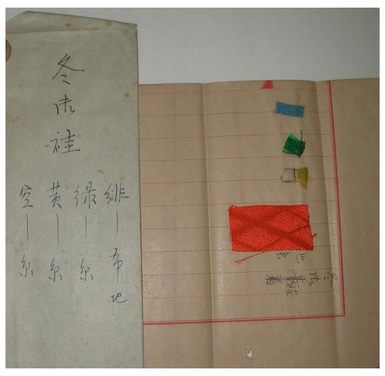
宮内省の担当者から、文様の大きさや配置、装束の寸法等の細かい注文を記した書簡が五通、残っている。

拝復
時は厳寒の候益々御清祥の段□賀候。□って
本日御雛形並に御絵形確に落手仕候。早速
拝見致し候所誠に精細に出来上り居り候へ共
実際に配置して見て未だ少々具合悪しきと愚考
致す箇所有之　御写御参考の為め御雛形御覧
に入るべく候　衿肩の御寸法には一寸具合悪しき所
有之候　各商店の方は漸く四五日前に
御寸法等通知致し只今一生懸命絵形等
作成致し居候
先ずは　お返事方々要件迄申上候　匆々
二月六日　中田虎一
萩原先生
二伸　小生儀　十一日より供奉致すべく候間
何卒十一日以降は葉山に御願申上候

染色見本作製


冬　小袿　雛形及び見本布地

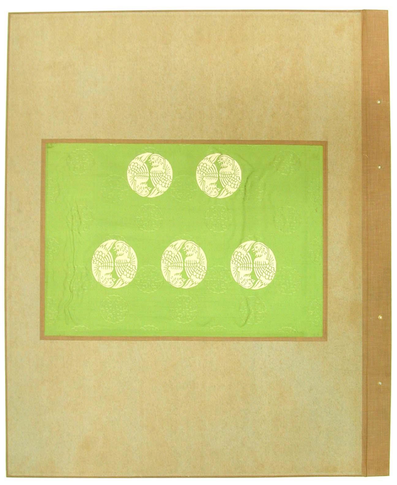

冬　表着　地糸見本

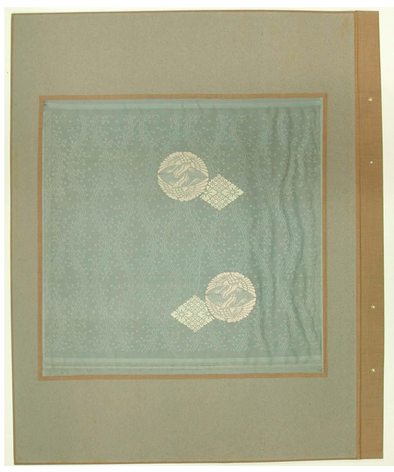

冬　袿　地布及び糸見本

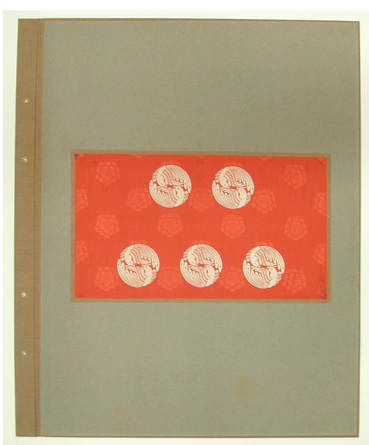
冬　袿　織見本

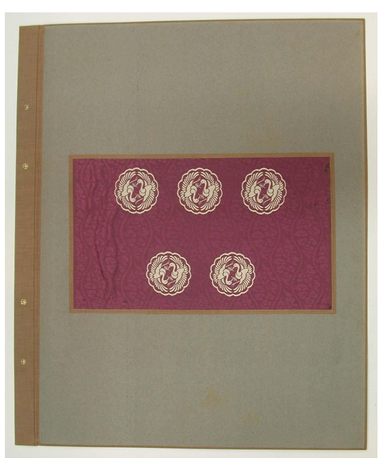
織見本作製

裂地帖表紙


夏　小袿


夏　袿


冬　小袿


冬　表着

冬　袿